

豊中・サンマテオ
都市提携ニュース



第25・26合併号
1996年6月1日発行
豊中・サンマテオ
姉妹都市協会
事務局 豊中市人権文化部
文化課国際交流係
TEL 858-2651



豊中市とサンマテオ市の野球チームが試合前に
プレゼントを交換（万博球場にて）

WELCOME, BASEBALL TEAM!!

サンマテオ市の少年野球チームが豊中市少年野球連盟の招待で、1995年8月13日から20日まで豊中市を訪れました。8日間という短い期間でしたが、豊中市少年野球チームとの親善試合やホームステイなどを通じて交流の輪を広げました。



サンマテオの訪問団が豊中市役所を訪れました。



熱戦が行われた万博球場



さよならパーティにて

1979年夏に豊中市の野球チームがサンマテオ市を親善訪問して以来、両市の少年野球チームの交流が続いています。8回目の相互交流となった今回は、サンマテオ市姉妹都市協会の副会長ジョージ・ムサンテさんを団長とする市民訪問団と少年野球チーム(総勢34名)が豊中市を訪れました。試合は、8月14日から万博球場などで行われ、暑い日差しにも負けずみんな元気いっぱいたたかいました。

試合	月日	勝	敗
第1試合	8/14	豊中 ○ー×	サンマテオ
第2試合	8/15	豊中 ×ー○	サンマテオ
第3試合	8/15	豊中 ×ー○	サンマテオ
第4試合	8/17	豊中 引き分け	サンマテオ
第5試合	8/19	豊中 ×ー○	サンマテオ

SEE YOU AGAIN!

8日間があつという間に終わり、とうとうお別れの日がやってきました。

炎天下での熱戦のすえ、勝って皆で抱き合っただり、負けてくやし涙をながしたり。京都や琵琶湖を訪れて日本文化にも触れました。ホームステイ先ではしゃいで夜遅くまで眠れなかったことなど、サンマテオの選手たちは日本で過ごした楽しい日々を思い出を胸に、豊中に別れを告げました。

ENGLISH SPEECH CONTEST

高校生英語弁論大会

第22回

大会

1994年1月29日、豊中・サンマテオ姉妹都市協会が主催の第22回英語弁論大会が、新しく建設されたとよなか国際交流センターのイベントホールで開催されました。今回は市内外の高校8校から14人が参加し、弁論が行われました。



前列左から、
鈴木さん、山添さん、佐竹さん
上田さん、澤田さん

優勝は桜塚高校1年生の佐竹理加さん、準優勝は梅花高校1年の上田佳奈さんでした。入賞者は次の皆さんです。(敬称略)

順位	名前	学校名	学年
優勝	佐竹理加	桜塚高校	1年
準優勝	上田佳奈	梅花高校	1年
3位	山添由佳	箕面高校	3年
4位	澤田佳里	豊中高校	2年
5位	鈴木真知子	東豊中高校	1年

優勝した佐竹理加さんは「身体障害者」を演題に、交通事故に遭い車椅子をつかっていたとき、一人の身体障害者から胸をはって生きていくことを教えられたことを話しました。準優勝の上田佳奈さんは「さようなら空腹な少女!」との題で、遠慮とはつきり言う事とのバランスをとることを訴えました。

審査員は金蘭短期大学教授のデービッド・ボールドウィンさん、同大学教授ジュディ・ガーナンドさん、姉妹都市協会常任理事の川合隆子さん、三島高校校長の宮城弘善さん、

大阪府教育委員会嘱託・外国人児童担当の清家速登さんの5人。弁論のあと、発音やテーマの内容が慎重に審査され、成績が発表されました。

審査員を代表しボールドウィンさんの次のような講評がありました。『今年によく準備がなされており、皆さんのレベルが揃っていました。オーバージェスチャーはスピーチの内容が壊れます。審査員全員の意見ですが、内容の構成力に優れている方やオリジナルな意見をもっている方、心を動かす力のある方、発音にめぐまれている方、表現力の豊かな方など、とても優れた生徒さんが多く、今年は真剣な態度とトピックに思い入れがあることやアプローチが新鮮であること等によって選ばせていただきました。』

優勝された佐竹さんと準優勝の上田さんはサンマテオ市が市制100周年を迎えた1994年の8月に姉妹都市サンマテオ市へ親善使節として派遣されました。

第23回
大会

第23回の英語弁論大会は1995年4月15日に市立中央公民館で開催されました。今回は震災の影響もあり、4月の開催となりましたが、市内外から28人の参加者を迎え、熱気あふれる大会となりました。



前列左から、井上さん、和田さん、築山さん、姉妹都市協会の福盛会長、片山さん、中田さん、渡辺さん

優勝は豊中高校2年生の築山あいさん、準優勝は同志社女子高校3年の片山 茜さんでした。入賞者は次の皆さんです。(敬称略)

順位	名 前	学校名	学年
優 勝	築 山 あい	豊中高校	2年
準優勝	片 山 茜	同志社女子高校	3年
3 位	井 上 英 里	梅花高校	2年
4 位	和 田 あやか	豊中高校	3年
5 位	中 田 敦 子	桜塚高校	3年
審査員特別賞	渡 辺 幸 枝	北野高校	2年

優勝した築山あいさんは「ゆとりのない生活」と題して、受験勉強や日々の勉強に追われてゆとりのない生活をおくる日本の若者について話し、もっと心にゆとりをもてれば周囲の人々に対して思いやりとやさしさをもって接することができるのではと訴えました。準優勝の片山 茜さんは「同じ人間として」を演題に、真の男女平等社会とは何かを問いかけ、互いを尊重し合い、同じ人間として一人ひとりのもつ個性や価値を認めあうことが大切であると語りました。また、3位の井上英里さんは「鏡よ鏡、教えておくれ」と題して、人は他人という鏡によって自分自身の言

動や欠点を知ることができ、自分を成長させることができると話しました。

審査員は金蘭短期大学教授のデービッド・ポールドウィンさん、同大学教授のジュディ・ガーナントさん、大阪女学院短期大学講師のハイラア・エドニィさん、姉妹都市協会常任理事の川合隆子さん、元大阪府教育委員会嘱託・外国人児童担当の清家速登さんの5人。弁論後、審査が行われ、皆さんの成績が発表されました。審査員の先生方からは次のような講評がありました。「今年は、上位の方々の実力が接近しており順番をつけるのに大変苦勞し、特別に審査員特別賞をもうけました。出だしの序文で聴衆の興味をひくことがポイント。内容の構成がしっかりして自分の意見が述べられていること、強調したい点が入っていること、また、発音や強調、リズム、声の大きさ、わかりやすい英語であるかなどに着目して評価しました。」

なお、今回のサンマテオ市への親善使節には、優勝した築山さんがアメリカ留学のため派遣を辞退されたので、準優勝の片山さんと3位の井上さんが派遣されました。

第24回
大会

第24回目を迎えた今回は男女あわせて22名が参加し、1996年1月27日、とよなか国際交流センターで開催されました。



前列左から、谷村さん、中川さん、安田さん、福盛会長、守山さん、大谷さん、佐々木さん、中村さん

優勝は桜塚高校1年の安田佳代さん、準優勝は豊中高校1年の守山千代子さんでした。入賞者は次の皆さんです。(敬称略)

順位	名 前	学校名	学年
優 勝	安 田 佳 代	桜塚高校	1年
準優勝	守 山 千 代 子	豊中高校	1年
3 位	中 川 由 美	梅花高校	1年
4 位	大 谷 理 栄	梅花高校	1年
5 位	谷 村 美 佳	豊中高校	1年
審査員特別賞	佐々木 理 恵	同志社女子高校	2年
審査員特別賞	中 村 一 代	豊中高校	1年

優勝された安田佳代さんは「おじいちゃん」と題して、祖父の死を通して高齢化問題を考えるようになったと語り、急速に進む高齢化社会のなかで、高齢者が社会と切り離されることなく家庭や他の世代と共に生き生きと暮らせる社会をつくらなければならないと語りました。

また、準優勝の守山千代子さんは「勉強地獄」と題して、成績の善し悪しだけで人を判断しがちな社会の現状を嘆き、一人ひとりのもつ個性を尊重するとともに、勉強に追われるのではなく、ゆとりをもって生活すること

の大切さを訴えました。

審査員は金蘭短期大学講師のデービッド・ポールドウィンさん、同大学教授のジュディ・ガーナントさん、大阪女学院短期大学講師のハイラア・エドニィさん、姉妹都市協会常任理事の川合隆子さん、財団法人とよなか国際交流協会事務局長の雨森孝悦さんの5人。

審査員の先生方からは、「一昨年、昨年は参加者が女子生徒のみでしたが、今年は男子生徒の参加があり嬉しく思います。スピーチを行う際に大切なのは、内容に自分の経験や意見が反映されていること、発音やリズムだけでなく、目線に気を付けて聴衆にアピールすることです。またユーモアも少し入れるとよりよくなるでしょう。今年は1年生の参加者が多かったので、もっと練習をして次回もぜひ参加されることを期待します。」という講評がありました。

なお、優勝された安田さんと準優勝の守山さんは、今年8月に親善使節としてサンマテオ市へ派遣されます。

私たちのサンマテオ訪問記

豊中・サンマテオ姉妹都市協会が毎年主催している英語弁論大会の上位入賞者2名が両市の親善のための使節として1週間アメリカのサンマテオ市へ派遣されました。

第22回大会

佐竹理加さん・上田佳奈さん
(派遣期間1994. 8. 21 ~ 8. 28)

第23回大会

片山茜さん・井上英里さん
(派遣期間1995. 8. 20 ~ 8. 27)



左から 上田さん、佐竹さん

中央左 佐竹さん、右 上田さん

佐竹理加

まちに待ったアメリカ旅行。21日の4時に空港で上田さんに会って、期待と不安を胸に抱きいざ出発、となった時、二人共大はしゃぎ。機内ではほとんどみんなが寝ている中、私たちは話がはずんでまだかまだかと待つばかり。誰も同伴しない二人旅なんて初めてだったけど、困難もなくホストファミリーをすぐ見つけることができました。出発前の不安

がうそのように、とても穏やかな気持ちになってホストファミリーに話すことができ、サンマテオ市のみなさんにも、以前からの知人のように、とても親しくしていただいたことがうれしかったです。百周年という記念すべき年に派遣していただき、式典やパレードに参加させていただきました。マリナーワールドやサンフランシスコ市内、大学、アイススケ

ートとさまざまな所に連れて行っていただき、たくさんの友達をつくることができたことは忘れられない素晴らしい思い出になりました。

この一週間は、見るもの、聞くもの、すべてに新鮮な感動を覚えた反面、私たち日本人の性格とは対照的なアメリカ人の性格を痛感したり、「人と人のコミュニケーション」がとても素晴らしく、とてもかけがえないものだという、簡単だけれども何よりも大切なことを教わりました。それは、今までの私の心

の持ち方を、大きく変えた様に思います。このアメリカ訪問は、これから私が生きていく中で、語学を学ぶ上で、大きくプラスになることでしょう。

派遣させていただいた皆さん、サンマテオ市の皆さん、ホストファミリーに感謝の気持ちでいっぱいです。仲良くなれた友達や、サンマテオ市の皆さんに会いに行く日を楽しみにして、これからがんばって生きたいと思います。ありがとうございました。

上田佳奈

やっとの思いで、あこがれのアメリカ西海岸サンフランシスコ空港に到着し、両手を広げて、温かく迎えてくれたホストファミリーと共に車に乗り込みました。ホストファミリーはサンマテオ姉妹都市協会副会長のムサンテ氏でした。今年100周年という、記念すべき年に、ここサンマテオ市に来れたという喜びも大きかったけれど、ホストファミリーや、その他サンマテオ協会の役員の方々、サンマテオ市長、そして佐竹さんのホストファミリーとの交流が私にとって今まで味わったことのない素晴らしい時間でした。学校で学んできた英文法によって、出会ったことのない寛大な心の持ち主であるサンマテオ市の方々とお会いできたことはとても幸運だったと思います。

夜は、ホストファミリーといろんなことを話しました。家族のこと、学校のこと、友達のこと、日本のこと。どれもこれも、興味をすぐ持ってくれ、目を輝かせて熱心に聞いてくれました。言語・文化・考え方は違うけれど、結局は、互いに理解し合おうとする姿勢、温かい心を持つと努力することが英語をただ話すより、より絆が深まるということを実感しました。100年に一度の大きな時の流れの一点に、私とサンマテオ市の人々、そしてホストファミリーとの素晴らしい生活があったことを、私は一生忘れません。そしてこんな貴重な体験をするチャンスを与えて下さった姉妹都市協会の皆さんに対して心から感謝します。

片山茜

弁論大会の出場順番を決める抽選で1番という順番を引いた時は、不安とプレッシャーで目の前が真っ暗になりました。案の定、大会では大事な文章を少しとばしてしまい、もう半ばだめだとあきらめていました。ところ

が思いもかけずサンマテオ市長賞(2位)を頂き、サンマテオ市に派遣されることになりました。豊中市長賞(1位)の方が留学を理由に派遣を辞退されたので、3位の方が繰り上がって、彼女とサンマテオ市に向かうこと

になりました。サンマテオ市から来ていた少年野球チームの皆さんと一緒に飛行機に乗り込み、一路サンフランシスコ国際空港へ向かいました。

私のホストファミリーは空港で“WELCOME”と書いた風船をたくさん持って出迎えてくれました。私のホストファミリーは大家族で、お父さん、お母さんにお姉さんが2人、弟、そしてお姉さんのダンナさんと子ども2人の合計8人です。私は家族の一員として迎えられ本当にみんなやさしく、温かく接してくれました。サンマテオについてその日から、サンフランシスコ市内観光はもちろん、フィッシャーマンズワーフ、スタンフォード大学、レッドウッドフォレスト、ナパバレなどいろんなところに連れて行っていただきました。姉妹都市協会会長さんの夕食に招かれたり、市長表敬訪問したりと、充実した毎日を過ごしました。しかし、一番印象に残っているのは、忙しい合間をぬって一緒に買い物をしたり映画を見にいったりしたことです。

日常の何気ない家族とのふれあいが私にとってはとても新鮮で、忘れがたいものとなりました。国際交流というのは何も国と国同士などの大きなフィールドで考えるものではなく、個人と個人の交流から広がっていくものだと認識することができるようになりました。期間としてはわずか一週間という短い間でしたが、一年にも相当するような充実した楽しい日々でした。今度はぜひ留学という形でアメリカへ戻りたいと考えています。



左 片山さん、右 井上さん

井上 英里

私はこの夏、サンマテオ市で、今までで一番いい思い出作りをすることができました。飛行機から見たサンマテオ市は、私が想像した以上に美しい町でした。今年有幸いに、アメリカから少年野球チームが来日した年だったので、私はアメリカへ立つ前に、チームのメンバーだったホスト・ブラザーのロビーに会うことができました。そして彼らが帰国するのと一緒に私たちは渡米しました。飛行場では野球チームのメンバーの家族が彼らを出迎えていました。“WE MISSED YOU!”と書かれた旗を見て、私はアメリカの家族のつながりの深さを感じました。もちろん、私

のホストファミリー＝ロビーの家族も、私たちを出迎えてくれました。これからのサンマテオでの一週間を考えると少し不安もありましたが期待で一杯でした。

ポッター家（私のホストファミリー）の家は丘の上に建っていて、眺めは抜群でした。朝方や夕方には、サンフランシスコの町が海からの霧で覆われていて美しい風景を見ることができました。彼らが私にくれた部屋は、ホテルの一室のような、とてもかわいらしい部屋でした。ベッドの上には彼からのプレゼントが置いてありました。こちらからは彼らにたくさん贈物を持っていきましたが、彼ら

から私にプレゼントがあるなんて予想外で驚きました。中身はサンフランシスコの歴史や気候、町の様子などが書かれた一冊の本でした。彼らが、私に来るのを待っていてくれたということを実感し、胸が熱くなりました。私のステイ中にホストファミリーのランドの誕生日があったのでアメリカ式バースデーパーティーも経験することができました。その日は、ポッター家とロビーの友達とでフィッシュマーケット（レストラン）へ行きました。そこではシーフード料理を食べることができました。そして家に戻ってから、私はランドにバースデーカードを渡しました。アメリカに着いたばかりでプレゼントを買う時間がなく、日本から持ってきた京都の絵ハガキにメッセージを添えて渡したのですが、ランドはとても喜んでくれて、そのハガキを居間に飾ってくれました。

私がサンマテオに来て一番心に残ったことは、彼らがとても家族を大切にしているということです。寝る前の、一人一人にする hug は私にとって新鮮なものでした。

ある時、私は彼らに、なぜホストファミリーになろうと思ったのと尋ねました。すると彼らは「自分たちの息子のロビーが日本でお世話になったのだから、私たちも日本人を受け入れるのが当然だと思ったから。」と答えました。私はその言葉を聞いて一層彼らのことが好きになりました。

私は他にも、ショッピングモール、ゴールデンゲートブリッジなどいろんなところに連れて行っていただきました。3日間かけてレイ

ク・タホという、とってもきれいな湖にも連れて行っていただきました。

私にとって彼らと過ごす最後の夜、私たちはサンフランシスコの有名なイタリア料理のレストランへ行きました。その日は土曜日だったのでとても混雑していました。外でも待たされたし、テーブルに着いてからもだいぶ待ちました。その間、私は彼らに、日本の事や日本の友達のことについてたくさん話しました。本当に何時間も待たされて、みんなイライラしていましたが、最後にホストファミリーのロレーンが「あなたとずっと一緒にいることができ、多くの話を聞くこともできてよかったわ。」と言ってくれました。ほんとうに涙がでるほどうれしかったです。

このサンマテオでの一週間は私にとって一生忘れられない思い出となりました。

ほんとうにどうもありがとうございました。私をアメリカに派遣して下さった方々、アメリカで私を温かく迎えて下さった方々に感謝いたします。



右2番目下から 井上さん、後ろが 片山さん

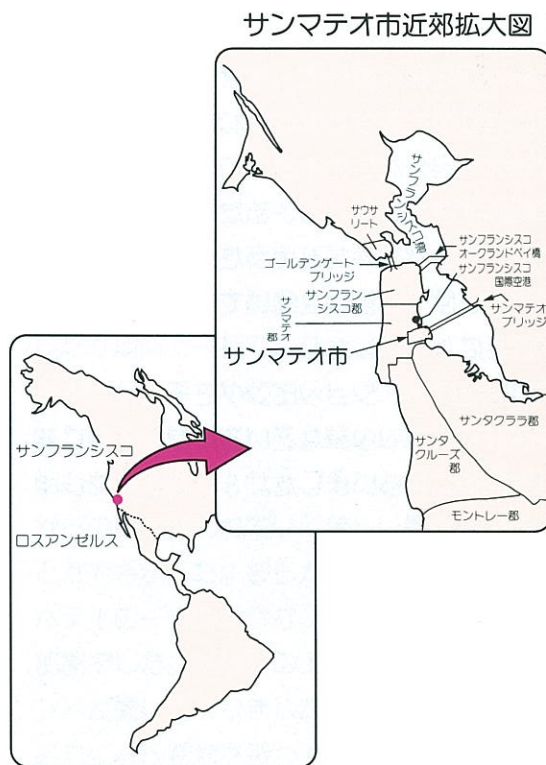
姉妹都市あらかると

❖❖ 豊中市とサンマテオ市の友情 ❖❖

昭和37（1962）年の夏、サンマテオ市の高校生サリー・バーコウさんがYMCAの交換留学生として日本に滞在中、豊中市に立ち寄り、住宅都市として町の雰囲気や空港が近くにあることなどの類似点や親切にされたことをサンマテオ市の市議員をしている父親に話しました。その頃、サンマテオ市は日本の都市との姉妹都市提携を希望していたので話がトントン拍子に進み、サンマテオ市議会では昭和38（1963）年2月18日に提携を承認、3月13日にサンマテオ市から豊中市に公式な姉妹都市提携の申し入れがありました。豊中市では7月23日に市議会承認され、10月8日にウイスナー市長を迎えて、豊中市役所で姉妹都市提携の調印が行われました。以来33年にわたって、豊中市とサンマテオ市は文化・スポーツなどの交流を通じて友情を育ててきました。

サンマテオ市って どんなところ？

サンマテオ市は明治27（1894）年9月4日に市制が施行され、その歴史は100年以上も続いています。アメリカ合衆国カリフォルニア州サンフランシスコ半島の中ほどにあり、東はサンフランシスコ湾に面し、西はコースタル山系で太平洋と隔てられています。なだらかにひろがる丘陵地には美しい住宅が建ち並んでいます。サンフランシスコ市とは30キロメートルの距離に位置し、近くにサンフランシスコ国際空港があり交通の便が良かったため、住宅都市として発展してきました。



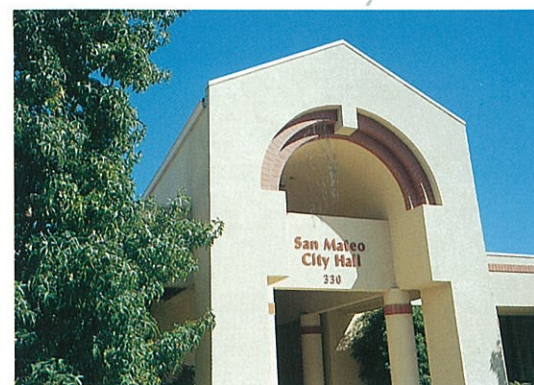
サンマテオ市近郊拡大図

カリフォルニアの陽光かがやくサンマテオ市は1年を通じて気候が温暖で、晴天の日が年間の3分の1もあります。あたたかい気候のため2月から3月にかけて桜が満開になります。また、バラの栽培が盛んで『バラの都』とも呼ばれています。

市内のセントラル・パークには日本庭園もあり、訪れる人々の心を和ませてくれます。庭園には昭和41（1966）年に豊中市民から贈られた五重の塔があります。



五重の塔



サンマテオ市庁舎



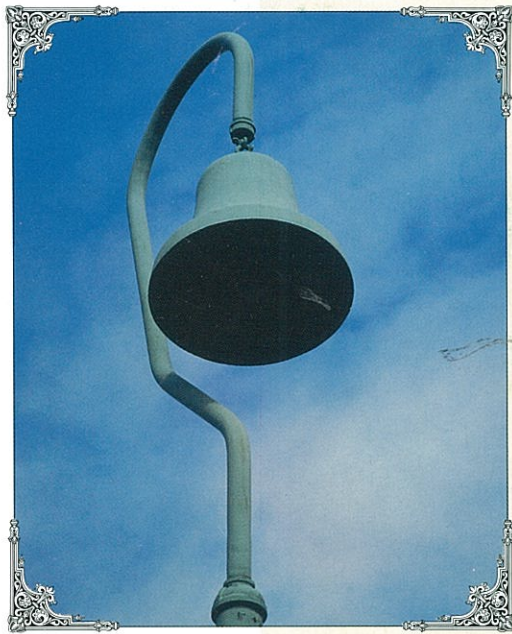
セントラル・パーク内の日本庭園

❖❖❖ 友情のバラが咲きました！ ❖❖❖

平成元年（1989）年、姉妹都市提携25周年を記念してサンマテオ市から豊中市へバラが贈られました。

このバラは二ノ切池公園の一画に植えられ毎年4月から5月にかけて美しい花を咲かせ、私たちの目を楽しませてくれます。





エルカミノリールベル（豊中市役所に設置）
1964年にサンマテオ市民から豊中市民に
友情のしるしとして贈られました。